

6.4 アンケートによる授業評価

(1) アンケート概要

研究開発対象生徒に対して授業に関するアンケート調査を3回(平成15年5月、平成15年10月、平成16年3月)実施した。アンケートの目的は、家庭学習の変化、PE及び、総合英語という3つの授業に対する姿勢や取組みの変化、英語力に関する意識の変化などを調査し、その後の授業改善に生かすことである。第1回アンケートでは入学前の家庭学習の様子も調査したので、アンケート結果の表中に(入学前)として加えた。毎回、41名中ほぼ全員の生徒からの回答が得られたが、2004年3月時点の生徒総数は39名である。(2名海外留学)

(2) アンケート結果

質問項目	実施時期	(入学前)	第1回目 2003年6月	第2回目 2003年10月	第3回目 2004年3月
家庭学習時間					
	30分以下	9	9	25	25
	30~1時間	20	20	13	13
	1時間以上	5	5	2	0
	2時間以上	5	0	0	0
学習方法		複数回答		1日の全英語学習時間を10とした時の比率	
	CD/テープを聴く	7	6	11%	8%
	CD/テープを聴いての音読する	6	13	9%	14%
	教科書の黙読	13	12	16%	19%
	シャドーイング	0	15	13%	8%
	単語を辞書で調べる	24	30	11%	23%
	英文を和訳する	24	14	4%	7%
	英文をノートに書き写す	18	7	7%	3%
	音読+ノートへの書き写し	4	11	10%	6%
	その他(ラジオ、歌、問題集、単語を書く、暗唱)	9	3	16%	4%
総合英語に関して					
好感度					
	大変好き		3	1	0
	まあまあ好き		14	13	19
	あまり好きでない		18	22	18
	嫌いである		4	3	1
和訳は役立っているか?					
	大変役立っている		21	23	21
	まあまあ役立っている		12	13	16
	あまり役立っていない		6	2	1
	全く役に立っていない		0	0	0
同じ英文を繰り返し読んでいると思うか?					
	大変そう思う		4	3	4
	まあまあそう思う		16	12	19
	あまりそう思わない		15	20	11
	全くそう思わない		4	2	4

英語力の伸長に効果があると思う活動は？				
単語・熟語力		19	25	22
文法		18	12	11
個々の英文を読む力		11	10	9
長文を読む力		12	16	23
英語を聞く力		11	8	11
英語を話す力		13	9	4
英語を書く力		12	9	9
その他		4	2	1
パワー・イングリッシュ に関して				
		PE	PE	PE
好感度				
大変好き		8	4	6
まあまあ好き		23	24	22
あまり好きではない		6	10	9
嫌いである		2	1	1
同じ英文を繰り返し読んでいると思うか？				
大変そう思う		13	12	6
まあまあそう思う		18	13	21
あまりそう思わない		6	5	9
全くそう思わない		1	2	2
家庭学習で最も重要だと思う活動は？				
CD リスニング		6	5	8
音読		5	6	9
シャドーイング		18	19	15
音読筆写		13	8	5
その他		3	1	0
英語力の伸長に効果があると思う活動は？				
単語・熟語力		3	6	3
文法		1	3	2
個々の英文を読む力		14	10	7
長文を読む力		12	8	2
英語を聞く力		29	29	28
英語を話す力		36	29	33
英語を書く力		8	8	7
その他		0	0	1
英語学習全般				
あなたの英語力の強みは何？				
英語を読む力		14		
英語を聞く力		9		
英語を話す力		7		
英語を書く力		14		
あなたの英語力の弱点は何？				
英語を読む力		11		
英語を聞く力		20		
英語を話す力		21		
英語を書く力		15		

4 - 10月/1年で最も伸びた英語力は何？				
英語を読む力			5	4
英語を聞く力			20	17
英語を話す力			13	12
英語を書く力			0	5
4 - 10月/1年で最も伸びなかったと思う力は？				
英語を読む力			3	11
英語を聞く力			4	3
英語を話す力			10	12
英語を書く力			20	11
英語学習で最も好きな活動は？				
黙読		4	2	6
音読		16	14	10
ペア活動		3	7	5
単語探し		5	8	7
Q&A		3	8	1
インタビュー		2	3	3
英語を書く活動		4	4	6
シャドーイング		7	15	9
リピーティング		9	2	3
リスニング		5	5	2
ウォームアップゲーム		23	15	19
音読筆写		2	5	1
その他		0	1	5

(3) 考察

家庭学習について（質問項目、 ）

項目にある入学前の家庭学習時間は、高校入試の影響を受けた中学3年次の数値であると考えられる。これが中学3年間の平均的な学習時間とは考えにくい。問題は、家庭学習時間が本校への入学以来次第に減る傾向にあることである。この傾向は、本校生徒全体の傾向とほぼ一致するので、英語科だけの問題として考えるのではなく、学校全体の問題として検討しなければならないと考える。

一方、学習内容に目を向けると、本校での授業・指導の成果が徐々に現れているのではないかと思われる。項目を見ると、本校入学以前は単語を辞書で調べる、英文を和訳する、英文をノートに写す、などに取り組んだ生徒が多いが、本校への入学後はリスニング、音読、音読筆写、シャドーイングなど英語そのものを使ったトレーニング的な学習を取り入れた生徒が増加し、4技能の点で見ても非常にバランスの取れた家庭学習を行えるようになってきていると判断できる。

まとめとしては、家庭学習の時間は減っているが、家庭学習内容にはバラエティーが芽生え、技能的に見てもバランスは決して悪くない。英語での基礎トレーニング方法が生徒に受け入れられ定着しつつあると考えられる。

総合英語について（質問事項、 ）

項目を見ると、総合英語の授業では主に和訳先渡し方式での授業を展開したが、まだ生徒からの支持は十分に得られていないことがわかる。「好感度が低い＝力のつかない授業」であるとは必ずしも言えないが、この点は昨年までの調査結果といくぶん異なっており、原因がどこにあるのかももう少し詳細を調査・検討してみる必要がある。

これまでの本校での指導実践では、好感度に関する質問項目では過半数以上の生徒の支持が認められ

ている。生徒が挙げた主な理由は、「これまでの授業とは異なり新鮮である。予習の必要がないので精神的に楽だ。モデル和訳があるので家庭でも取り組める。」などである。

今年度の不人気の原因として、授業担当者は、1) 授業の進め方が単調であった、2) 生徒が達成感を得られるようなフィードバックを十分に行なわなかった、3) 英語量・授業形態の点で中学校とのギャップに生徒が困惑した、などを挙げている。一方、生徒は「授業のペース・教材内容・教員の指示」など基本的なことに対して不満を持っていることがわかった。基本的な指導技術・方法を再確認するとともに、低学年生徒への配慮ある授業展開を心がける必要があると思われる。

一方、項目 を見ると、和訳配布については9割以上の生徒が「役に立っている」と答えており、実際、授業内外において様々な方法で積極的に和訳利用を試みていることがわかった。和訳はあくまでも補助輪であるので、今後和訳なしでの英文読解にどのように結び付けていかも指導上重要な点であると考えられる。また、和訳配布については、配布すると辞書を引かない生徒が増えるのではという懸念があったが、項目 を見る限りでは4月から6月にかけては辞書を使用する生徒は増加している。また、10月・3月の回答でも全英語学習時間における%は高くなっている。むしろ、授業担当者が英語力伸張と語彙力の関係を生徒にしっかりと伝え、具体的な指導を実践することによって生徒の意識・活動が大きく影響を受けたのではないと思われる。ただ、語彙指導については、辞書指導も含め、どのようにすべきかまだ課題が残っている。たとえば、指導すべき語彙を受容語彙と発表語彙に分類して指導すると生徒の頭に残る語彙はどのように変化するか、などについて研究を広げたい。

項目 での生徒の意識や授業担当者の報告をまとめると、長文に対する抵抗感が少なくなった、和訳に頼らないで英文を理解しようとする姿勢がうまれつつある、英文を読んですばやく概要を把握できるようになった、など長文を読むことに関してはかなりの成果が得られていると思われる。また、バランスのとれた英語力伸長という点でも、生徒の効果への意識が、語彙、文法、長文、リスニング、ライティングと多岐に渡り、指導のねらいとほぼ一致している。

PE ・ について(質問項目 、 ~)

項目 の学習方法でわかる学習方法の幅には、PE ・ の授業において英語学習にとって非常に重要だと思われる基本的スキルとしてリスニング、音読、シャドーイング、音読筆写などの訓練方法を多用し、それらを家庭学習としても推奨・奨励したことが大きく影響していると思われる。このような変化が見られるようになったことは大きな収穫である。訳読式の授業スタイルの場合は、家庭学習の大半が新出単語調べと和訳作業に使われるのに対し、本年度の取組では本来の意味で英語運用能力を伸張するのに必要な訓練に家庭学習が使われるようになったと言える。家庭学習が、授業内容や授業の狙いに大きく左右されることがあらためてわかった。

また、項目 好感度では、この授業が少人数制である、日本人教員だけではなくネイティブ・スピーカーが交互に担当している、聞く・話すの実感が得られる授業である、という理由で支持する生徒が過半数を占めている。好きでないと回答した生徒は、なんとなく、英語がわからない、面白くない、いつもパターンが同じ、などを理由として挙げている。

項目 を見ると、聞く・話すという能力に関しては、生徒の能力向上への高い意識・実感がわかる。授業内容がほぼねらい通りに行われていると思われる。ただ、読む・書くという指導と生徒の意識・活動の間にはまだかなりのずれが存在している。そのずれができるだけなくなるような指導内容の修正を行なう必要があると考えられる。

英語学習全般について(質問事項 ~)

総合英語、PE ・ という英語授業全般を通じて、生徒は自分の英語力をどのように変化していると感じているかがわかる。

項目 では、本校が重点的に取り組んだ「聞く・話す」に関する活動はおおむね生徒に受け入れられたのではないかと考える。一方、「読む・書く」に関しては、生徒にはまだ十分に達成感を与えられなかったと省察する。今後の指導では、「話す」に関しては半数の生徒がまだ強く持っている苦手意識をどう克服するか、「書く」に関しては、量と家庭学習との関係、質的な面で文法やスピーチ・ディベートといった活動との関連付け、などに取り組む必要があると考えられる。